

統合後の変化(メリット・デメリット等)

統合のメリット	<ul style="list-style-type: none">・新規事業の開設ができた。・利用者層が拡大できた。・臨床経験が豊富なNSがそろい、教育効果が高まった。・OJTができるNSが確保できた。・ケアの質の向上・主任を置き、管理、教育機能を高めることができた。・緊急当番の日数が減少した(NSごと)
統合のデメリット	<ul style="list-style-type: none">・スタッフの管理・主治医、ケアマネジャーとの連携に時間がかかる。・利用者増による訪問計画作成と調整に時間がかかる。

- 統合により、療養通所介護事業の実施や、ヘルパーステーション、新卒看護師の受け入れ、障害児の通所事業等、事業拡大の可能性が生じている。

3. モデル事業の各パターン

2) ネットワーク化

■現在の課題

小規模事業所のため、訪問看護事業所の運営にかかる様々な諸業務(管理業務/事務業務/電話対応/物品調達/人材確保・研修等)の職員負担が大きく、経営・運営の効率性が低い。

■モデル事業の内容

各訪問看護事業所で実施している共通的な業務を切り出し、地域の訪問看護事業所同士が効率化のために一元化し、協働して実施する。

協働実施のプロセス・方法・内容や、協働実施前後の収支状況・利用者数・職員負担等の変化を明らかにする。